

二〇〇九年七月二十八日（ブラレ西宮）

滝音のひびく奈落の谷深し	わかば
万緑の奈落を走る早瀬かな	〃
内海に浮びし島の灯涼し	〃
太鼓打つごとと立の屋根ひびく	宏 虎
滝しぶき浴びて常濡れ石仏	ぼんこ
開け放つ方丈滝の音ひびく	ひかり
法事終へ安堵のビール干しにけり	つくし
日蝕を見上ぐる人ら玉の汗	菜 々
足湯へと浴衣絡げて姦しく	きづな
雨晴れて真珠光りす苔の庭	かれん
白百合を活けて亡母偲びけり	満 天

吟行句会みの選

二〇〇九年七月二十八日（ブラレ西宮）